

## 1 概要

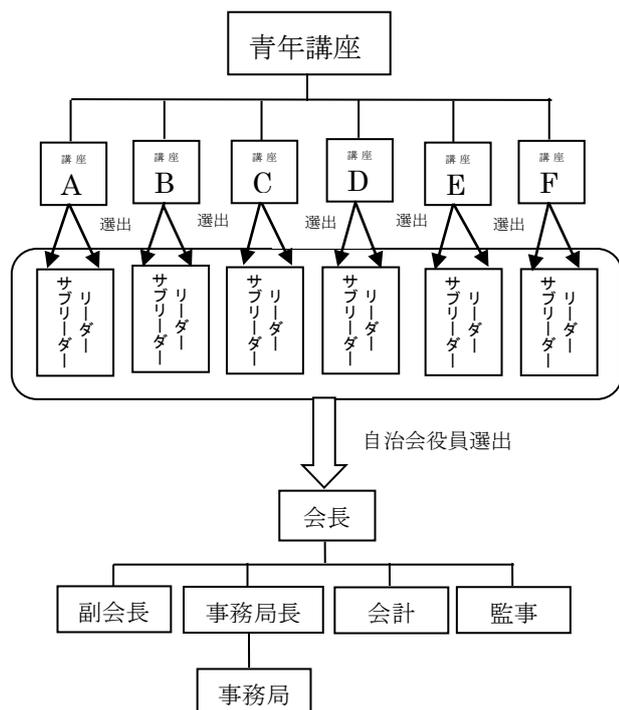
青年講座は、平成 19 年 4 月に中央公民館がアオッサに移転するに伴い、福井市が勤労青少年ホーム・勤労婦人センター・青年の家の事業を統合し、事業移管してできたものである。

平成 26 年度現在、「抹茶」「癒しのヨガ&フットセラピー」「楽ラク料理」「生花」「さわやかスマイル講座」「ペン習字」の 6 講座が行われている。

18 歳～39 歳の福井市内在住又は在勤の人を対象とした講座で、仲間との学びを通して人とのつながりを築き、協調性や社会性を身に付けることや社会活動への参画を目的としている。

また、この講座では、自治会を組織していて、講座の申し込みと同時に会費 1,000 円を払い自治会の会員となる。自治会は、会員の自発的な活動の推進を図るとともに、自治会員相互の親睦を図ることを目的として活動している。各講座からリーダーとサブリーダーを選出し、その中から選ばれた会長・副会長等の役員を中心に、講座とは別に集めた会費の中で、一年間やりたい活動を企画・運営している。(図 1)

(図 1) 青年講座自治会組織図



## 2 平成 24 年度の青年講座

受講生 136 名(自治会員 118 名) ※含複数講座受講者

### (1) リーダー選出に苦心

青年講座は例年開講式後に、各講座でリーダーとサブリーダーの 2 名を選出している。毎年決める段階になると仕事を抱えることになると思いうか立候補はなく、皆が下を向き重苦しい雰囲気となる。しまいにはじゃんけんでないと決まらないという状況であった。

### (2) 青年講座自治会総会 6月22日(金)19:00~20:45 13名

例年、総会で会長等の役員を選出するのですが「4、5 名くればよい。」と言われていて、もう少し参加者が増えると良いのにと思っていた。そこで、開講式後に各講座で呼びかけるとともに、前年度から参加している方や、講座申込の段階で皆と交流を持ちたいと思っていると感じた人に個別の声掛けを試みた。そのかいがあってか、この日は 13 名の出席があった。

### (3) 青年講座自治会ネット配信

最近の若者はインターネットを通じて情報の発信、収集をしている。つまりインターネット上に基となる情報がない場合は若者に情報が届きにくい状態だということだ。そこで自治会のメンバーにブログを立ち上げ、情報の発信をしてもらえないかと話を持ちかけた。ブログが立ち上がれば、各講座の様子がわかりつながりもできやすくなる。会長の U さんが「じゃあ、やってみましょう。」と声を出し、中央公民館のホームページからブログへの入口ができた。

### (4) カフェタイム

昨年、講座によっては技術の習得のみになっていて、同じ部屋で学んでいるにも拘らず、ひとこともしゃべらずに帰る状態の講座もあることに気が付いた。コミュニケーションがなかなか取れずにいる。これでは横の連携を図ることもできない。「講座の中での交流で話が出来るしくみは作

れないだろうか」「ひとつの目的があるとコミュニケーションが取りやすいのではないだろうか」と考え、同じ学びを共有している者同士の安心感のある講座で、2、3ヶ月に1度おしゃべりをする時間を設けてみることにした。「カフェタイム」と名付けた。「その時にお茶とちょっとしたお菓子があればなおいいのに・・・」との思いがあったが、予算がない。そこで、自治会に公民館のねらいを伝え、「自治会費で予算を組んでもらえないだろうか」と話してみたところ「いいのではないか」とのことで、平成24年度は、一人当たり250円の予算を組んでもらえることになった。青年講座募集パンフレットにカフェタイムのことも載せて、公民館事業を理解してもらう手がかかりとした。

### (5) Iさんの自発的な活動「抹茶通信」

公民館に出入りしている青年に「やりたいことがあったら言ってみて。サポートできることはできるだけしたい」と伝えると、数年間抹茶講座を受講しているIさんが、「今年は『抹茶講座通信』を出していこうと思う。できれば毎講座の発刊を目指したい」とのことであった。Iさんは抹茶を以前から習っていて、茶道に対する興味を深めるためにも多くの情報をわかりやすい形で、同じ講座生に届けたいという気持ちのようであった。さらに、『抹茶通信』を発刊するに当たり、原稿を講座の講師に見てもらった上で発刊したい。通信は公にせず抹茶講座生だけに配る。青年講座受講生であれば、希望があれば渡す」との提案もあり、そのように進めてもらうことにした。

Iさんの前向きな思いと、更に慎重に進めようとする姿勢を見て、この自発的な活動を他の青年たちに伝えるために、今年度から取り組んでいる「青年講座通信」で全講座生に伝えた。

### 3 気軽に立ち寄れる場所に

青年に公民館は気軽に立ち寄れるところなんだと思ってもらいたい。そのためには出入りしやすいように、カウンター越しに話をするのではなく、

時間があるのなら中に入ってもらうように声をかけをしていく。そして、講座の道具を片付けるときも時間があれば一緒にその場において言葉を交わすようにする。それを地道に繰り返すことで訪ねて来る青年が増えてきたように感じる。仕事帰りに、出かけたついでに寄ってくれるようになってきた。そして一緒に話す、話を聞き入れる、お願いできる場所は任せて提案する。そこから広がるものを大切にしていきたい。

#### 楽ラク料理（青年講座ブログより抜粋）

2回目の講座から、いつもと違う試みがありました。それは・・・、班替え！！

例年なら1回目の講座の時に、〇〇さんはA班、△△さんはB班、といったふうに決められてて、最終まで基本的には自分の班内でお料理を作るのですが、今回は講座に来た人から順番に名簿に名前を書き、自分の名前の列に班のアルファベットが書いてあるので、その班に行く！という仕組みです。

こんな説明でわかる？説明べたですみません・・・つまり！毎回班が違うので、お料理メンツも変わるのです☆初めまして～♪もあり、こないだはどうも～☆もあるのです。ん～、中公さん(中央公民館の略)考えましたな～！

毎回いろんな人とおしゃべりできるので、結構評判はいいみたい☆



青年講座開講式



自治会総会風景

